

【第 1 問】

【解答】

[1] 2 倍角の公式 $\cos 2\theta = 1 - 2\sin^2 \theta$ より,

$$\cos 2\theta = 1 - 2t^2$$

である. これと $\sin \theta = t$ を $y = f(\theta)$ に代入すると,

$$\begin{aligned} y &= 3(1 - 2t^2) + 4t \\ &= -6t^2 + 4t + 3 \end{aligned}$$

これを t について平方完成すれば,

$$\begin{aligned} y &= -6\left(t^2 - \frac{2}{3}t\right) + 3 \\ &= -6\left\{\left(t - \frac{1}{3}\right)^2 - \frac{1}{9}\right\} + 3 \\ &= -6\left(t - \frac{1}{3}\right)^2 + \frac{11}{3} \end{aligned}$$

$0^\circ \leq \theta < 180^\circ$ より $0 \leq \sin \theta \leq 1$, つまり $0 \leq t \leq 1$ である.

グラフを描けば右図のようになるので,

最大は $t = \frac{1}{3}$ のとき, $\frac{11}{3}$. 最小は $t = 1$ のとき, 1 .

次に, 三角関数の加法定理より

$$\begin{aligned} &\sin(\alpha + 30^\circ) \\ &= \sin \alpha \cos 30^\circ + \cos \alpha \sin 30^\circ \\ &= \frac{\sqrt{3}}{2} \sin \alpha + \frac{1}{2} \cos \alpha \quad \dots\dots\dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

よって $f(\alpha) = 3$ ($0^\circ < \alpha < 90^\circ$) のときの, $\cos \alpha$, $\sin \alpha$ を求めればよい. そこで, $f(\alpha) = 3$ のときの $t (= \sin \alpha)$ を求める.

$$\begin{aligned} f(\alpha) = 3 &\iff -6t^2 + 4t + 3 = 3 \\ &\iff t = 0, \frac{2}{3} \end{aligned}$$

$0^\circ < \alpha < 90^\circ$ より $0 < \sin \alpha < 1$ なので $t = 0$ は不適. つまり, $\sin \alpha = \frac{2}{3}$. また, $0^\circ < \alpha < 90^\circ$ に注意して,

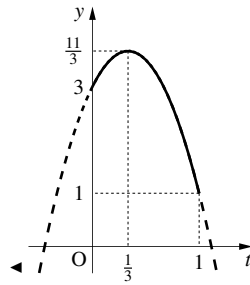
$$\cos \alpha = \frac{\sqrt{5}}{3}.$$

これらを ① に代入すれば,

$$\sin(\alpha + 30^\circ) = \frac{\sqrt{3}}{2} \cdot \frac{2}{3} + \frac{1}{2} \cdot \frac{\sqrt{5}}{3} = \frac{2\sqrt{3} + \sqrt{5}}{6}$$

[2] (1) $\log_x 27$ が定義できるよう, $x > 0$, $x \neq 1$ が満たさ

◀ 加法定理より $\cos(\theta + \theta) = \cos^2 \theta - \sin^2 \theta$ であり, これに $\cos^2 \theta + \sin^2 \theta = 1$ を使えばよい



◀ 対数の底には 1 でない正の数が入らないといけない.

れないといけない。

また、対数の底の変換公式 $\log_a b = \frac{\log_c b}{\log_c a}$ より、

$$\log_x 27 = \frac{\log_3 27}{\log_3 x} = \frac{3}{\log_3 x} \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

(2) ② を不等式 (*) に代入して移項すると

$$2 \log_3 x - \frac{12}{\log_3 x} - 5 \leq 0$$

この式の両辺に $\log_3 x$ を掛けて分数を無くしたい。しかし、 $\log_3 x$ の正負によって、場合分けをしないとけない。

$0 < x < 1$ のときは、 $\log_3 x < 0$ なので不等号は逆を向き、

$$2(\log_3 x)^2 - 5 \log_3 x - 12 \geq 0 \dots\dots\dots \textcircled{3}$$

$t = \log_3 x$ とおいて (つまり $t < 0$) , ③ を解くと

$$\begin{aligned} 2t^2 - 5t - 12 \geq 0 &\iff (2t+3)(t-4) \geq 0 \\ &\iff t \leq -\frac{3}{2}, \quad 4 \leq t \end{aligned}$$

$t < 0$ より $t \leq -\frac{3}{2}$ のみ答えとして適する。これを x の式に直せば

$$\begin{aligned} \log_3 x \leq -\frac{3}{2} &\iff 0 < x \leq 3^{-\frac{3}{2}} \\ &\iff 0 < x \leq \frac{1}{(\sqrt{3})^3} = \frac{\sqrt{3}}{9} \end{aligned}$$

◀底は 3 なので、不等号の向きは変わらない。

よって、 $0 < x \leq \frac{\sqrt{3}}{9}$ が答えとなる。

$1 < x$ のときは、 $0 < \log_3 x$ なので不等号はそのままで、

$$2(\log_3 x)^2 - 5 \log_3 x - 12 \leq 0 \dots\dots\dots \textcircled{4}$$

$t = \log_3 x$ とおいて (つまり $0 < t$) , ④ を解くと

$$2t^2 - 5t - 12 \leq 0 \iff -\frac{3}{2} \leq t \leq 4$$

$0 < t$ より $0 < t \leq 4$ のみ答えとして適する。これ

を x の式に直せば

$$\begin{aligned} 0 < \log_3 x \leq 4 &\iff 3^0 < x \leq 3^4 \\ &\iff 1 < x \leq 81 \end{aligned}$$

よって、 $1 < x \leq 81$ が答えとなる。

以上をまとめると、不等式 (*) の解は $0 < x \leq \frac{\sqrt{3}}{9}$, $1 < x \leq 81$ である。

【第 2 問】

【解答】

(1) 点 (t, t^2) における C_1 の接線の方程式を求める。

C_1 の接線の傾きは

$$y' = (x^2)' = 2x$$

となる。点 (t, t^2) を通るので、傾きは $2t$ となる。

よって、点 (t, t^2) を通り、傾きが $2t$ となる接線の方程式は

$$y = 2tx - t^2 \quad \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

一方、 C_2 の接線も同様にして求める。

C_2 上の点 $(s, s^2 - 4as + 4a(a+1))$ を通る接線の傾きは、 $y' = 2x - 4a$ より、 $2s - 4a$ となる。

よって、 $(s, s^2 - 4as + 4a(a+1))$ を通る接線の方程式は、 $y = ax + b$ に各数字を代入して

$$\begin{aligned} s^2 - 4as + 4a(a+1) &= (2s - 4a)s + b \\ \iff b &= -s^2 + 4a(a+1) \end{aligned}$$

なので、 $y = (2s - 4a)x - s^2 + 4a(a+1)$ …… $\textcircled{2}$ である。

C_1 と C_2 の接線は共通接線なので、 $\textcircled{1}$ 、 $\textcircled{2}$ の x 係数と 0 次の項を比較して

$$\begin{cases} 2t = 2s - 4a \\ -t^2 = -s^2 + 4a(a+1) \end{cases}$$

これを解いて

$$\begin{cases} s = 2a + 1 \\ t = 1 \end{cases} \quad \dots\dots\dots \textcircled{3}$$

よって、 $\textcircled{1}$ と $\textcircled{2}$ が等しくなる、すなわち共通接線と

なるときの t の値は 1 となる.

したがって、直線 l の方程式は、 $t = 1$ を ① に代入して

$$y = 2x - 1 \quad \dots\dots\dots ④$$

また、 l と C_2 との接点の x 座標は、③ より、 $s = 2a + 1$ である.

また、 y 座標は、④ に $s = 2a + 1$ を x に代入して、 $y = 4a + 1$ である.

よって、接点の座標は $(2a + 1, 4a + 1)$ である.

(2) C_1 と C_2 の交点 P は、 C_2 に C_1 を代入して

$$\begin{aligned} x^2 &= x^2 - 4ax + 4a(a + 1) \\ \Leftrightarrow x &= a + 1 \end{aligned}$$

これを C_1 に代入して、 $y = (a + 1)^2$ となる. よって、P の座標は $(a + 1, (a + 1)^2)$ である.

直線 m の傾きは、直線 l と等しいので 2 となる. よって、傾きが 2 で、 $(a + 1, (a + 1)^2)$ を通る直線の方程式は、 $y = ax + b$ に各数値を代入して

$$\begin{aligned} (a + 1)^2 &= 2(a + 1) + b \\ \Leftrightarrow b &= a^2 - 1 \end{aligned}$$

よって、 $y = 2x + a^2 - 1$ である.

直線 m と y 軸の交点においては $x = 0$ なので、 $y = a^2 - 1$ が成立. ここで、 $y > 0$ となる a の値の範囲は

$$a > 1 \text{ または } a < -1$$

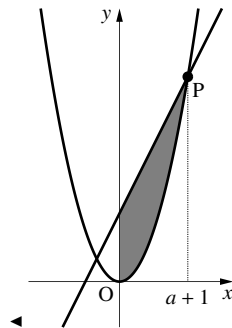
a は正の実数なので $a > 1$ である.

(3)

$$\begin{cases} y = x^2 & (x \geq 0) \\ y = 2x + a^2 - 1 & (a > 1) \\ y \text{ 軸} \end{cases}$$

で囲まれた図形は右図の斜線部のようなになるので、その面積は

$$\begin{aligned} &\int_0^{a+1} (2x + a^2 - 1 - x^2) dx \\ &= \left[-\frac{1}{3}x^3 + x^2 + a^2x - x \right]_0^{a+1} \end{aligned}$$



$$\begin{aligned}
 &= -\frac{1}{3}(a+1)^3 + (a+1)^2 + a^2(a+1) - (a+1) \\
 &= (a+1)\left(-\frac{1}{3}a^2 - \frac{2}{3}a - \frac{1}{3} + a^2 + a\right) \\
 &= \frac{1}{3}(a+1)(2a^2 + a + 1) \\
 &= \frac{1}{3}(a+1)^2(2a-1)
 \end{aligned}$$

【第3問】

【解答】

(1) $\{x_n\}$ が等差数列であることから、

$$2b = a + c \quad \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

が成り立ち、 $\{y_n\}$ が等比数列であることから、

$$a^2 = bc \quad \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

が成り立つ。

この2つの式から、

$$\begin{aligned}
 a^2 &= (2b - a)b \\
 \Leftrightarrow 2b^2 - ab - a^2 &= 0 \\
 \Leftrightarrow (2b + a)(b - a) &= 0
 \end{aligned}$$

$$\therefore b = -\frac{1}{2}a$$

◀ $b = a$ は、 a, b, c が相異なる実数であることと反する

また、この結果を①に代入すると、 $c = -2a$ となる。

等差数列の公差は、

$$b - a = -\frac{1}{2}a - a = -\frac{3}{2}a$$

となる。

(2) 等比数列の公比は、

$$\frac{a}{c} = \frac{a}{-2a} = -\frac{1}{2}$$

となる。

$\{y_n\}$ の初項から第8項までの和は、

$$\begin{aligned}
 \sum_{k=1}^8 y_k &= \sum_{k=1}^8 \left\{ -2a \cdot \left(-\frac{1}{2}\right)^{k-1} \right\} \\
 &= \frac{-2a \left\{ 1 - \left(-\frac{1}{2}\right)^8 \right\}}{1 + \frac{1}{2}} \\
 &= -\frac{85}{64}a
 \end{aligned}$$

となる.

- (3) 階差数列 $\{w_n\}$ の第 1 項, 第 2 項を調べると, それぞれ $-\frac{3}{2}a$, $3a$ となる.

これより, $\{w_n\}$ の公差は,

$$3a - \left(-\frac{3}{2}a\right) = \frac{9}{2}a$$

となる.

$\{w_n\}$ の一般項は,

$$\begin{aligned} w_n &= -\frac{3}{2}a + (n-1) \cdot \frac{9}{2}a \\ &= \frac{9n-12}{2}a \end{aligned}$$

であり, $\{z_n\}$ の一般項は, $\{w_n\}$ の一般項は,

$$\begin{aligned} z_n &= -\frac{1}{2}a + \sum_{k=1}^{n-1} \frac{9k-12}{2}a \\ &= \frac{a}{4}(9n^2 - 33n + 22) \end{aligned}$$

と表される.

【第 4 問】

【解答】

(1)

$$\begin{aligned} |\vec{a} + \vec{b}|^2 &= 1^2 \\ \Leftrightarrow |\vec{a}|^2 + 2\vec{a} \cdot \vec{b} + |\vec{b}|^2 &= 1 \\ \therefore \vec{a} \cdot \vec{b} &= \frac{-1}{2} \end{aligned}$$

また

$$\begin{aligned} |2\vec{a} + \vec{b}|^2 &= 4|\vec{a}|^2 + 4\vec{a} \cdot \vec{b} + |\vec{b}|^2 \\ &= 4 - 2 + 1 = 3 \end{aligned}$$

よって, $|2\vec{a} + \vec{b}| = \sqrt{3}$ となる. さらに

$$\begin{aligned} (2\vec{a} + \vec{b}) \cdot \vec{b} &= 2\vec{a} \cdot \vec{b} + |\vec{b}|^2 \\ &= 2 \cdot \left(-\frac{1}{2}\right) + 1 = 0 \end{aligned}$$

より, $2\vec{a} + \vec{b}$ と \vec{b} のなす角は 90° となる.

- (2) $\vec{c} = s\vec{a} + t\vec{b}$ とおく (s, t は適当な実数).

条件より, \vec{c} は \vec{a} に垂直なので

$$\begin{aligned} & (\vec{s}\vec{a} + t\vec{b}) \cdot \vec{a} = 0 \\ \Leftrightarrow & s|\vec{a}|^2 + t\vec{a} \cdot \vec{b} = 0 \\ \therefore & s - \frac{t}{2} = 0 \\ \Leftrightarrow & t = 2s \end{aligned} \quad \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

また, $|\vec{c}| = 1$ なので

$$\begin{aligned} & |\vec{s}\vec{a} + t\vec{b}| = 1^2 \\ \Leftrightarrow & s^2|\vec{a}|^2 + 2st\vec{a} \cdot \vec{b} + t^2|\vec{b}|^2 = 1 \\ \therefore & s^2 + 2st \cdot \left(-\frac{1}{2}\right) + t^2 = 1 \\ \Leftrightarrow & s^2 - 2st + t^2 = 1 \end{aligned} \quad \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

①を②にもちいて

$$\begin{aligned} & s^2 - 2s^2 + 4s^2 = 1 \\ \Leftrightarrow & 3s^2 = 1 \\ \Leftrightarrow & s = \pm \frac{\sqrt{3}}{3} \end{aligned}$$

これらを, ①に代入して, $t = \pm \frac{2\sqrt{3}}{3}$, まとめると

$$(s, t) = \left(\pm \frac{\sqrt{3}}{3}, \pm \frac{2\sqrt{3}}{3} \right) \text{ (複合同順)}$$

さらに, 条件より $\vec{b} \cdot \vec{c} > 0$ であるから

$$\begin{aligned} & \vec{b} \cdot (\vec{s}\vec{a} + t\vec{b}) > 0 \\ \Leftrightarrow & \vec{s}\vec{a} \cdot \vec{b} + t|\vec{b}|^2 \\ \therefore & s\left(-\frac{1}{2}\right) + t > 0 \\ \Leftrightarrow & 2t > s \end{aligned}$$

これを満たす s, t は $(s, t) = \left(\frac{\sqrt{3}}{3}, \frac{-2\sqrt{3}}{3} \right)$ なので

$$\vec{c} = \frac{\sqrt{3}}{3}(\vec{a} + 2\vec{b})$$

(3) まず, $0 \leq \vec{p} \cdot \vec{a} \leq 1$ より

$$\begin{aligned} & 0 \leq (x\vec{a} + y\vec{c}) \cdot \vec{a} \leq 1 \\ \therefore & 0 \leq x \leq 1 \end{aligned} \quad \dots\dots\dots \textcircled{3}$$

次に、 $0 \leq \vec{p} \cdot \vec{b} \leq 1$ より

$$\begin{aligned}
 0 &\leq (x\vec{a} + y\vec{b}) \cdot \vec{c} \leq 1 \\
 \therefore 0 &\leq -\frac{x}{2} + y \cos 30^\circ \leq 1 \\
 \Leftrightarrow 0 &\leq -\frac{x}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}y \leq 1 \\
 \Leftrightarrow x &\leq \sqrt{3}y \leq x + 2 \quad \dots\dots\dots \textcircled{4}
 \end{aligned}$$

ここで

$$\begin{aligned}
 &\vec{p} \cdot \vec{c} \\
 &= (x\vec{a} + y\vec{b}) \cdot \vec{c} \\
 &= x\vec{a} \cdot \vec{c} + y|\vec{c}|^2 \\
 &= y
 \end{aligned}$$

x, y が③, ④の範囲を動くとき、 y の最大値は $\sqrt{3}$ ($x = 1$) である。

これより

$$\begin{aligned}
 \vec{p} &= 1 \cdot \vec{a} + \sqrt{3} \cdot \vec{c} \\
 &= \vec{a} + \sqrt{3} \left\{ \frac{\sqrt{3}}{3}(\vec{a} + 2\vec{b}) \right\} \\
 &= 2\vec{a} + 2\vec{b}
 \end{aligned}$$

【第 5 問】 【第 6 問】 は省略
【第 7 問】

【解答】

(1) $OB = 1, \angle BOA = 60^\circ$ であるから

$$\beta = \frac{1 + \sqrt{3}i}{2}$$

である。

点 $Q(z_1)$ は、 $P(z)$ を O ののまわりに 60° だけ回転した点であるから

$$z_1 = \beta z \quad \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

◀ β をかけることは、原点中心に 60° 回転させる働きがある

\vec{RP} を表す複素数 $z_2 - z$ は、 \vec{RA} を表す複素数 $1 - z$ を 60° 回転したものであるから

$$\begin{aligned}
 z_2 - z &= \beta(1 - z) \\
 \Leftrightarrow z_2 &= z + \beta(1 - z) \quad \dots\dots\dots \textcircled{2}
 \end{aligned}$$

$$w = \frac{z_1 - \beta}{z_2 - \beta} \text{ において, ①と②より}$$

$$\begin{aligned} w &= \frac{\beta z - \beta}{z + \beta(1 - z) - \beta} \\ &= \frac{\beta z - \beta}{z - \beta z} \\ &= \frac{\beta}{1 - \beta} \cdot \frac{z - 1}{z} \end{aligned}$$

ここで

$$\begin{aligned} \frac{\beta}{1 - \beta} &= \frac{1 + \sqrt{3}i}{1 - \sqrt{3}i} \\ &= \frac{1 - 3 + 2\sqrt{3}i}{4} \\ &= \frac{-2 + 2\sqrt{3}i}{4} \\ &= \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2} \end{aligned}$$

より, $w = \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2} \cdot \frac{z - 1}{z}$ となる.

- (2) ここで, $v = \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2}$ とおくと, w が純虚数すなわち, $w = -\bar{w}$ のとき

$$\begin{aligned} v \cdot \frac{z - 1}{z} &= -\bar{v} \cdot \frac{\bar{z} - 1}{\bar{z}} \\ \Leftrightarrow v\bar{z}(z - 1) &= -\bar{v}z(\bar{z} - 1) \\ \Leftrightarrow (v + \bar{v})z\bar{z} - v\bar{z} - \bar{v}z &= 0 \quad \dots\dots\dots \text{③} \end{aligned}$$

ここで, $v + \bar{v} = \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2} + \frac{-1 - \sqrt{3}i}{2} = -1$ より
③は

$$\begin{aligned} z\bar{z} + v\bar{z} + \bar{v}z &= 0 \\ \Leftrightarrow (z + v)(\bar{z} + \bar{v}) &= 1 \\ \Leftrightarrow (z + v)\overline{(z + v)} &= 1 \\ \Leftrightarrow |z + v|^2 &= 1 \\ \therefore |z - (-v)| &= 1 \end{aligned}$$

← 一般の複素数 z に関して $z\bar{z} = |z|^2$

これより, 点 $P(z)$ は, $-v = \frac{1 - \sqrt{3}i}{2}$ を表す点を中心とする, 半径 1 の円周上にある.

【第 8 問】

【解答】

- (1) $Y = 4$ となる確率は、さいころの目が 4 回とも同じになる確率であるから

$$P(Y = 4) = \frac{6}{6^4} = \frac{1}{216}$$

- (2) $Y = 2$ となる確率は、ある数が 2 回、他のある数が 2 回出る確率であるから

$$P(Y = 2) = \frac{{}_4C_2 \cdot \frac{1}{2} \cdot 6 \cdot 5}{6^4} = \frac{5}{72}$$

- (3) $P(Y = k) > 0$ となる k は、1, 2, 4 の 3 通り。よって

$$P(Y = 1) + P(Y = 2) + P(Y = 4) = U \text{ (全集合)}$$

であるので、 $Y = 1$ となる確率は

$$\begin{aligned} 1 - (P(Y = 4) + P(Y = 2)) &= 1 - \left(\frac{1}{216} + \frac{5}{72} \right) \\ &= \frac{25}{27} \end{aligned}$$

これより、 Y の平均は

$$E(Y) = 1 \cdot \frac{25}{27} + 2 \cdot \frac{5}{72} + 4 \cdot \frac{1}{216} = \frac{13}{12}$$

Y の分散は

$$\begin{aligned} V(Y) &= E(Y^2) - E(Y)^2 \\ &= 1^2 \cdot \frac{25}{27} + 2^2 \cdot \frac{5}{72} + 4^2 \cdot \frac{1}{216} - \left(\frac{13}{12} \right)^2 \\ &= \frac{5}{48} \end{aligned}$$

- (4) $X \geq 2$ となる条件のもとで、 $Y = 1$ となるのは、

- (i) ある数が 3 回でて、他のある数が 1 回でる場合
- (ii) ある数が 2 回でて、他のある数がそれぞれ 1 回ずつでる場合

の 2 通りである。(i) は、1 回だけでる数が何回目の試行にでるかで 4 通り、3 回でる数が何であるかで 6 通り、1 回だけでる数が何であるかで 5 通り考えられるので、この場合は

$$4 \cdot 6 \cdot 5 = 120 \text{ (通り)}$$

である。(ii) は、2 回でる数がどこどこに出るかで ${}_4C_2 = 6$ 通り、その数が何かで 6 通り、1 回ずつでる

数が何と何かで $5 \cdot 4 = 20$ 通りであるので、この場合は

$$6 \cdot 6 \cdot 20 = 720 \text{ (通り)}$$

である.

$X \geq 2$ となる場合は、すべての試行で違う数ができる場合の背反事象であるから

$$6^4 - 6 \cdot 5 \cdot 4 \cdot 3 = 936 \text{ (通り)}$$

よって、求める確率は

$$\frac{120 + 720}{936} = \frac{35}{39}$$